

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172901308), 法人名 (有限会社 旭川ケアサービス夢), 事業所名 (グループホーム夢 西ユニット), 所在地 (旭川市春光台4条9丁目4-3), 自己評価作成日 (令和5年1月16日), 評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・新型コロナウイルスにより、外出レク等の活動が難しい状況ですが、施設近隣への散歩、外気浴など出来る限り外の空気に触れる機会や施設内で行える行事(新年会、夏祭り、敬老会等)を楽しめる様に工夫している。
・全居室に洗面台、トイレが設置されており排泄に関するプライバシーが保たれている。
・健康面では2名の看護師が勤務し健康チェックや医療機関との連絡など適切に行っておりご家族の安心に繋がっている。
・職員は10年以上の勤続者が多く入居者様とも永い交流をしており、ご家族様との信頼関係に繋がっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 1 row: 基本情報リンク先URL

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年2月3日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、平成16年に多種の福祉サービス事業所が集う、春光台の福祉村地区に開設された。職員は、有資格者や10年以上の勤続者も多く、真摯で丁寧な対応に努めており、申し送りや月例の会議の場で、自由に意見、提案を述べる機会がある。また、モニタリング成果として、利用者個々の短期目標の達成具合を共有しながら、本人本位な生活が出来るよう努めている。利用者家族には、電話連絡の他、月例でお便りを送付しており、職員の気付きや日常生活における何気ないシーン、健康状態等を詳細に伝えており、好評を得ている。地域とは現在、自粛傾向であるが、通例では、地域密着型サービスとして、相互の協力関係に注力しており、行事・町内会活動への積極的参加や福祉に関する相談に応じる等で連携を深めている。管理者を中心に個別ケアの視点で、一人ひとりを大切に支えている事業所の更なる活躍に期待したい。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎の理念を詰所とホールに掲示し、ミーティングで唱和し、理念の基に日々実践に努めている。	事業所理念を各所に掲示し、意識付けしている。主に申し送りや会議の場で理念への理解を深めており、日々の実践に活かせるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。総会にも参加し前期班長も務めた。 コロナ感染が収まらない為、外出行事は自粛している。	地域とは、現在は相互に自粛傾向にあるが、通例では地域活動、行事への積極的参加等で、関係が継続出来るよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、訪問、来所の機会がなかったが、コロナ感染症が緩和したら、認知症に対する理解や支援を広めていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ過の為、書面開催となっている。入居者様の現状説明や事業所の行事報告、ヒヤリハット等を議事録にまとめ各委員様に送付し、返事をもらいサービスに反映させている。	通例では、家族、町内会、包括から参加を得ながら、定例で開催している。現在は書面開催となっているが、議題には運営状況やヒヤリハット・事故・ご家族に伝えたい事などを挙げ、後日、委員から意見を求め、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では地域包括支援センターの職員よりFAXでご意見を頂き参考にしている。不明な点などは直接市の担当窓口へ確認を行っている。	市、地域包括支援センターから情報提供・アドバイスを得ている。また、包括主催の活動への協力や運営状況、事業所での取り組みについて報告し、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を定期的に開催し話し合った内容を全職員に周知している。内部研修会を開催し身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置し、定例で開催、内容について職員に周知している。全利用者の現状の確認と定期的に研修の機会を作り、禁止となる具体的な行為等について学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行っているミーティングで高齢者虐待ニュースを引用し、職員間で意見や感想を出し合っている。又、禁句言葉集で振り返りを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を活用されている方がおり、法律事務所の司法書士の方との繋がりは維持している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容や重要事項を分かりやすく説明するよう努めている。何か不安なことや疑問点やホームへの要望があればその都度対応している。又、入居者様の状況が変わった時も随時ご家族と話し合い、疑問点や不安な点を解消していただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ過により思うように外出や面会は難しい状況だが、可能な限り玄関外や玄関内でご家族と面会したり、電話をした際に意見や要望を伺っている。	利用者一人ひとりの日常や、行事、病気の状態等をお便りを作成し、家族に送付している。また、要望や苦情を遠慮なく話せるよう配慮し、出された意見は職員間で論議、検討しながらサービス向上に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット毎のミーティングを行い職員の意見や要望を聞く機会を設け運営に反映出来る様に努めている。また、日常的に職員の家庭環境や健康状態などの相談に可能な限りシフトの調整を行い働きやすい環境整備を行っている。	職員会議や日々の申し送りの場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、管理者が面談を行い、個別に意向、提案の聞き取りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所内で資格取得のサポートを行っている。管理者は日頃から、困っている事はないかなど話し合っている。又、休み希望も出来るだけ検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勉強会を行い、日々の業務に活かせる様にしている。コロナ前は外部の研修にも積極的に参加していた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為他事業所との交流は出来ていない。状況を見ながら機会を設け、サービスの向上に努めたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や入居前に事前訪問を通して、ご本人やご家族から生活状況や習慣、不安点やご本人の思いや要望をお聞きし、ホームへの入居の際には、できる限り不安を感じることがないように信頼関係の構築に努めた。収集した情報は、入居前に職員に伝達を行いケアを行えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望など、面談、契約時だけでなく入居後もいつでも話ができる関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴や事前面談、施設見学の際に要望や何気ない会話等からご本人の思いを引き出しニーズの見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が過剰に介護をしないようにし、その人の能力を見極めて、お願いできることは自身で行って頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	健康状態や日常生活の様子をご家族に伝えながら、情報を共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の体調を管理しつつ、ご家族・お孫さん等の訪問で馴染みの関係を維持している。コロナ過が収まらない為に、現在は外出を自粛し、訪問は受けるが玄関内での面会に自粛している。	コロナ禍により現在は外出が困難となっているが、電話の取り次ぎやホーム便りを発行し、近況を伝える事で、それまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居様の生活習慣、認知の状態等を考慮した上で、状況に応じて職員も入りながらお互いが関わり合いを持てるような働きかけを行っている。テレビの視聴や昭和の歌唱曲などをホールで聴き、日常生活の中で一緒に楽しく過ごせる空間作りにも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も介護・医療機関からの情報提供の依頼があればご家族様の了承の上で支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様から以前の生活習慣を伺ったり、ご本人の日常会話や動作を通して思いや意向を汲み取っている。	終末期を含めた個々の意向や希望の聞き取りに注力し、本人本位の生活となるよう支援している。家族からも情報を得て、プラン化に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していた事業所から情報をいただき、生活歴や経過、馴染みの暮らしを把握している。又、入居前にご本人とご家族と面談する時間を作って頂き、情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や毎日の申し送り等で精神、身体的な変化を全職員で情報共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの要望を基に、職員からの意見等も取り入れて、現状に合った介護計画を作成している。	利用者本位を基本に、家族、医療機関、職員の意見を反映し、計画作成担当者が原案を作り、職員間でモニタリング結果と合わせて検討して、現状に即したプラン作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、職員間の情報共有により、現状にあった介護計画の作成ができるよう見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や情報を共有し、その時々に合わせて対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為戸外に出掛ける機会がないが、ホーム内でレクリエーションを開催したり近隣を散歩したりフレッシュ出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医とスムーズに情報共有を行い、訪問診療、定期受診、入院対応も含め、迅速な対応ができる体制を築いています。又、訪問看護とも連携を行っている。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。また、医療機関との協力体制があり、記録を基に職員間で共有し、家族にも伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間、連絡体制が整っている。入居者様の状態報告や相談を行い、助言を受けている。状況によっては看護師から医師に連絡を取り、受診等の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通常の定期受診時より密に連携し、入院時には安心して治療が受けられるよう情報を提供している。必要時には医師や看護師からも病状等を聞き、職員も情報を共有し、いつでも受け入れができるような体制作りを行っている。ご家族への病状説明の際にも同席させて頂き、退院に向けての準備を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については契約時に説明し、意向を伺っている。今後の治療方法についてはご家族、医師と話し合いを行い、職員全体で情報を共有し、これからの対応に繋げている。又、施設サービス計画書を見直す際にもご本人から終末期の意向についても確認している。	契約時に指針を文書で説明し、同意書を得ている。また状況に応じて、医療機関を含めて話し合い、本人や家族の意向に沿って介護できるように、職員間で情報共有に努め、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に身体状況を確認し、体調変化のあった際には、速やかに看護師に連絡し指示を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。コロナ過で消防署の立ち合いは行えていないが、課題を整理し取り組み活かしている。	火災・自然災害を想定した避難訓練を定例で実施している。地域の福祉サービス事業所、近隣住民との協力体制と消防設備の確認を行い、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常のケアの中で入居者様へ掛ける言葉や態度に気を付けている。職員間でも気付いたことがあれば、情報交換や話し合いを行っている。	職員は、人格の尊重・個別性の確保は介護業務にとって極めて基本的事項として受け止め、家族対応を含めて、利用者個々の人格を損ねることの無いよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様と関わる際に表情や仕草からその方の思いや望んでいることを把握し、思いに沿った対応に努めている。又、職員はわかりやすい説明と統一したケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースに合わせた食事や入浴の支援に努めている。希望を表現できない方も多いため、日頃から様子を観察し言葉にできない思いを汲み取れるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問の美容室を活用している。季節や気温に合った服装や身だしなみができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染対策として、現在は入居者様と一緒にには行っていない。行事や誕生日だけでなく好きな物や希望のあった食べ物はトドックを利用している。	利用者の希望を取り入れ、季節感を大切に食事を中心している。好きなお手伝いをお願いし、楽しんで調理に参加出来るよう、職員が工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事は表を作成し、適量摂っていただけるよう支援している。入居者様の生活リズムに合わせて食事提供時間の変更をしている。咀嚼状態の悪い入居者様に対してはキザミ食、ミキサー食を用意し、支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守り、声掛け、介助と、その方の出来ることを見極めて、自立支援に努めている。又、歯科医の協力を得ながら、定期的に必要に応じて往診していただく等、一人ひとりに合わせた口腔ケアの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターンを把握し、それにより時間毎の声掛け誘導を行っている。誘導の間隔やオムツやパットの種類がご本人に合っているか等、必要に応じて見直しを行っている。	排泄はトイレで行うことを基本とし、時間や仕草からタイミングを図り、誘導を行っている。乳製品や軽い運動も取り入れて、自然な排泄となるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、ヨーグルトや牛乳を定期的に購入し、摂っていただいている。入居者様の状態に応じて個別で排便の促しになるような対応を工夫している。又、職員は便秘の影響により、不穏、不眠などの不調が起こりうることを理解し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としそれぞれの入居者様の声掛けのタイミングや対応する職員を調整しながら支援している。	時間帯や湯温、入浴方法等、可能な限り利用者の希望に応じて、快適な入浴となるよう支援している。同性介助の希望も聞き取っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調変化、状況に合わせて休息安眠ができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルを作成している。変更があった場合には、記録や申し送り伝達し確認できるようにしている。職員は入居者様の内服薬の目的や副作用を理解しており、心身状況の変化をみながら、状況に応じて医師や看護師へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望により音楽鑑賞、読書、外気浴を行ってもらい、希望のおやつや飲み物を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により、戸外への行事への参加はできていないが、施設前での外気浴は天候や体調をみながら継続して行っている。その他、施設内行事を皆で楽しむ取り組みを行っている。	コロナ禍の現在は、感染防止に留意しながら、敷地内での外気浴や近隣の散策などで気分転換を図っている。また、体操、レクで筋力低下防止に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する方は小遣いの一部を所持している。宅配サービスでの買い物を利用し、希望の物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と電話で直接話せる支援に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適共用空間確保の為、エアコン、加湿器等を設置し、温度計、湿度計で調整をしている。居室にはご家族との写真を、ホールには季節に合わせた飾りつけを行っている。	利用者と共に作る生活環境として、共有スペースは四季を感じる飾り付けや行事の写真が掲示されている。季節の合わせて模様替えが行われ、温・湿度や換気に留意された居心地良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの空間で快適に過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活で使っていた物等、慣れ親しんだ物をお持ち頂き、ホームで使用して頂いている。又、ご本人の希望する設備が使用できるよう支援し、状態に応じて居室の環境作りも行っている。	居室には家族の協力を得ながら、昔馴染みの家具や小物・写真等が持ち込まれており、自分の部屋として安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の表記をわかりやすいように工夫し、職員が誘導する際は不安のないよう声掛けし、安全に安心して暮らせるよう支援している。		